

令和5年度 水戸英宏小学校自己評価表

目指す 学校像	ひとりひとりの創造力と個性を大切にした教育を展開し、幅広い教養と高邁な識見を備え、国際社会の中でリーダーとして活躍できる人材を育成する。					
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標			達成状況
水戸一高附属中の合格者2名、 並木中等教育学校の合格・進学、 さらに水戸英宏中へ特待生合格、 東京医科歯科大学・北里大学・ 東京女子医科大学・日本大学医学部等の難関大学への合格者を輩出するなど素晴らしい進学実績をおさめた。その他、各種検定においても優れた成績を残すことができた。 本年度も、引き続き学習面・生活面双方のさらなる指導の充実を図りたい。		基本的生活習慣の確立	・安全で安心した学校生活が送れる環境づくりに努める。 ・「いじめ暴力ゼロ宣言」のスローガンのもと、教職員、児童、保護者が一丸となってその防止に取り組む ・挨拶、礼儀、言葉遣いを身につけた人格形成を目指す。 ・公共の場でマナーをわきまえた行動ができるよう指導する。			A
		学習習慣の確立と高い学力の育成	・授業に正しい姿勢で臨ませ、家庭学習を習慣化させる。 ・基礎学力を定着させるとともに、知識を活用できる高い学力を育成する。			A
		特別活動の充実	・諸行事を通して、他人を思いやり、協力し合う心を育てる。			A
		安心して学習できる環境の整備	・新型コロナウイルス感染症の予防に取り組む。感染者または濃厚接触者が発生した場合に的確かつ迅速な対応がとれる態勢を整え、二次感染を未然に防ぐ。 ・大規模な自然災害（地震など）に備え、情報収集方法を確立するとともに、的確かつ迅速に指示命令できる態勢を整える。			A
		国際感覚の涵養	・早期英語教育とイマージョン教育を通して、英語力を高めるとともに、海外（インドネシア・香港）の小学校との交流により国際理解教育を推進し、国際感覚の涵養に努め、異文化理解への積極的な姿勢を育成する。			A
評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策			評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	・授業時間の確保に努める。	・早めに出張、年休を把握して、可能な限り授業交換をする。 ・授業開始時刻までに教室に入り、児童を着席させる。			A	校内研修を充実させ、指導力の向上を図る。諸業務での計画性を高め、業務の円滑化に努める。 次年度も継続して教職員の研修の充実に努める。
	・保護者との連帯を強化する。	・学習状況や生活状況について保護者との連絡を密に取り、信頼関係を醸成する。 ・学年通信を毎月発行し、学校での学習状況、生活状況、学校行事などについて保護者に報告する。 ・5月と12月に学級懇談会を開催また年1回の保護者面談を実施し、保護者との情報交換をおこなう。			A	
	・個人情報への配慮を高める。	・個人名が記載された書類はシュレッダーを使用して処分する。 ・パンフレット等へ児童氏名や写真を掲載するにあたり、事前に保護者に確認し承諾書をいただく。			A	
	・教職員の資質向上に努める。	・朝会、職員会議等において教育方針の確認をおこなったり、研修資料を配付し教職員の質的向上を図る。 ・茨城県私学協会や日私小連等が主催する研修会へ教職員を派遣し、技能向上を図る。			A	
	・業務の効率化を図り、教職員の心身の健康を守る。	・校内ネットワークを整備し、ペーパーレス化や教職員間の情報共有を促進する。 ・教職員全体で効率的に業務を遂行できるよう、行事等の実施要項の作成・配付を早めに行う。			A	
学習指導	・コロナ禍でも児童の学びを止めない態勢を構築する。	・ICT 機器を利用して、臨時休校中でも授業や課題学習を進められる態勢を構築する。 ・ICT 機器を利用した個別学習指導の充実を図る。			A	児童一人ひとりの理解状況に応じて課題を提供するとともに、学習方法・取組姿勢に材づくりへの積極的な取り組みを継続する。
	・授業に臨む正しい姿勢を確立させる。	・チャイムと同時に授業開始の挨拶をさせる。 ・授業に集中させ、手わすらや私語等をする児童がいないように適切に指導する。			A	
	・授業内容の充実を図る。	・授業の精度を高め、わかりやすく無駄のない授業を提供する。 ・問題演習の時間を十分に与え、知識の定着を促進する。 ・パワーポイント等を利用した視覚的教材の開発を推進する。 ・実験、実習の機会を増やし、体験的な学習を充実させる。			A	
	・検定試験への積極的取り組みを促す。	・漢字テスト、計算テスト、英語テストを毎週実施することで、基礎学力の定着を図るとともに、反復練習を習慣化させる。 ・検定試験対策ゼミを実施し、受検に向けて児童の能力を伸ばす。			A	
	・自学自習の習慣を身につけさせる。	・放課後のエクストラスクールの時間において自学自習の姿勢を涵養する。 ・児童が個別に質問しやすい態勢を整える。			A	
生活指導	・安全で安心した学校生活が送れる環境づくりに努める。	・児童間の問題に対して、教職員が適切な指導をおこない、問題解決する習慣を身につけさせる。 ・通学路に教員を配置し、登下校時の交通安全を確保する。 ・昇降口の施錠を徹底するとともに、適宜校内巡回をおこない、不審者の侵入を未然に防ぐ。 ・防犯カメラを設置し、リアルタイムでの監視をすると共に、トラブルや問題行動の防止、さらに問題発生時の検証に役立てる。			A	一貫した指導を徹底させマナー向上を推進する。安全面については細部への配慮を怠らず、気づいたことから確実に処理する姿勢を継続する。令和5年度いじめ認知件数は0件。
	・品位とマナーを身につけた人格形成を目指す。	・教職員、来客への挨拶を励行するよう呼びかける。 ・友達を呼ぶときには名前に「さん」をつけるよう指導する。 ・公共交通機関利用時のマナー向上のため、朝の会・帰りの会や集会などで注意を喚起する。 ・感謝の気持ちをもって食事をいただくよう、昼食指導に取り組む。 ・テーブルマナー講習会で正しい食事のマナーを習得する。			A	

保健厚生	・学習環境の整備に努める。	・校舎内外の美化活動の取り組みを推進する。 ・教室内の空気・照度調査、飲料水の水質検査を実施する。	A	A	健康調査および清潔検査で収集した情報をより有効に活用して、健康維持・健康増進への取り組みを強化する。
	・心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。	・健康調査を毎朝実施し、児童の健康状況を的確に把握する。 ・清潔検査を毎月実施し、児童に清潔な生活習慣の確立を促進する。 ・保健だよりを毎月発行し、健康増進のための情報を発信する。 ・内科、歯科、耳鼻科の各検診を実施し、児童の健康状況を把握するとともに、健康増進のための適切なアドバイスを提供する。	A		
図書館	・図書室の利用者増加に努める。	・蔵書を増やすとともに、季節ごとの推薦図書を設置するなどして、親しみやすい図書室作りをおこなう。	B	B	継続して環境整備に努める。
	・図書室利用時のマナー向上に努める。	・図書館の利用時のマナーについて、朝の会や学活などを通じて指導の徹底を図る。	B		
特別活動	・世界的視野の育成と国際感覚の涵養に努める。	・早期英語教育において、ALTとも連携し、国際理解教育を推進し、国際感覚の涵養に努める。 ・海外の小学校との交流等により、具体的な体験を通して、国際感覚を身につける。	A	A	コロナが5類に移行し学校行事を再編し、実施していくことが不可欠である。
	・質の高い学問や芸術等に触れさせる。	・講演会を実施し、最先端の学問に触れる機会を設ける。 ・校外学習を実施し、博物館・美術館等において、学問や芸術への興味・関心を高める。	A		
	・他人を思いやり、協力し合う心を育む。	・スポーツ大会を開催し、団結力を高め、協力して目標を達成する姿勢を培うとともに、仲間を応援する優しさを育む。 ・文化発表会を開催し、協力して課題解決や諸発表に取り組む姿勢を育む。	A		
児童募集	・本校の教育方針、教育内容等について周知させるとともに受験者数を増加させる。	・学校紹介パンフレット、ポスターを作成し、本校の教育方針、教育内容等について広く知っていただく。 ・入学実績のある幼稚園や保育園を訪問し、パンフや行事等のチラシ配布を依頼する。 ・県内の幼稚園や保育園にパンフやチラシ等を送付し、園児への配付を依頼する。 ・学校説明会、入試説明会を定期的に開催し、多数の来校を促す。 ・個別相談日を設け、きめ細かな対応をおこなう。 ・ホームページでの学校紹介を充実させる。	B	B	物価高などの経済的な影響のためか、募集イベントへの応募者がやや低調だったが、児童募集活動全般について、内容・方法を再考し、充実を図っている。また転入希望が多いのでその対応を強化する必要がある。
第1学年	・基本的生活習慣及び学習習慣を確立させる。	・時間厳守、校則遵守、挨拶、言葉遣いについて指導を徹底する。 ・望ましい友人関係を築けるよう援助する。 ・学校行事などに積極的に参加し、望ましい人間関係を構築できるように支援する。 ・自ら学習に取り組む学習習慣を確立させる。	A		小学校生活にはやく順応できるように適切な支援態勢を充実させていく。
第2学年	・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と、思考力・判断力・表現力等を育成する。	・宿題や課題等への取り組みを通して、基本的な学力を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力等の育成のための効果的な指導を工夫し、実施していく。 ・学校全体で、児童の人間関係を把握することによって、いじめ・暴力を未然に防止するとともに、人間関係に悩んだり、孤立することがないように指導する。	A		学校生活に慣れ、学級内の人間関係が難しくなる時期なので、孤立する児童がないように指導する。
第3学年	・学習習慣を確立するとともに、級友や上級生・下級生と良い関係を構築する。	・基本的生活習慣や学習習慣を確立するばかりでなく、自己達成感に基づいて、自ら進んで学習に取り組む姿勢をとれるよう支援する。 ・特定の仲良しグループ内だけで交流することのないように、級友と分け隔てなく良い関係を構築できるよう指導する。	A		自立した学習習慣を確立させ、級内で仲の良い児童だけで固まらないよう指導する。
第4学年	・抽象的な思考を理解し他者の視点を肯定するとともに、実社会への興味関心をもたせる。	・基本的生活習慣や学習習慣を主体的に養成することによって、自己肯定感を育成する。 ・自己肯定感を高め、他者の視点を理解することは自他の尊重の意識や他者への思いやりなどを涵養することにつながる。 ・集団における役割の自覚や主体的な責任意識をの育成する。 ・体験活動の実施など実社会への興味・関心を持つきっかけをつくる。	A		クラスの中だけでなく異学年交流により自他の尊重意識や責任感を醸成する。
第5学年	・自律的な態度を養成し、責任感や批判力を大事にする一方で、自分の価値観だけに固執せず、他者を認める関係をつくっていく。	・やり直しノートなどを活用し、それぞれの児童が自分に必要な問題演習等を自覚し、自律的に勉強していく力をつける。 ・理想主義的な傾向が強くなるので、自分の価値判断に固執しがちになるが、共感的能力を十分発達させることによって、他者の価値観も認められるようにする。 ・行為の結果とともに行為の動機も十分に考慮できるようにする。 ・集団や社会における自分の役割や責任などについて、自覚を深めるようにする。	A		自分の属する集団の中でリーダーシップをとれるようにするとともに、他の集団との関係性も考えられるよう指導する。
第6学年	・最上級生としての意識を育むとともに自ら学習に取り組む姿勢を確立させる。	・自ら学習に進んで取り組む学習習慣を確立させ、基礎学力を高めるとともに知識を活用する能力の育成を図る。 ・学校行事等を通して、集団生活におけるリーダーシップを育成する。	A		集団生活においてリーダーシップをとれる児童の育成に努める。

※ 評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない